

2025 年度

事業報告書

2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本補助犬協会

2025 年度は、昨年に引き続き改正障害者差別解消法施行による公共交通機関等からの要請を受け「障害の社会モデル」を基礎とする合理的配慮に関するセミナー及び接遇セミナーを開催した。また、「心のバリアフリー」推進については、ユニバーサルデザイン2020行動計画評価委員及び心のバリアフリー分科会委員として政策に関わった当事者として、心のバリアフリー検定の実施等、推進活動に尽力した。

補助犬育成関係では、身体障害者補助犬認定審査会において対面と一部オンラインによるハイブリッド式を昨年に引き続き取り入れ、補助犬希望者及び認定審査員の負担軽減を図りつつ、審査会での円滑な認定を行うことができた。

当協会が長年取り組んでいる自立支援事業については、医療ファシリティードッグは関西地区で派遣し、教育ファシリティードッグは、東京大学教育学部附属中等教育学校へ派遣した。自閉症児支援犬セッションは、東京大学バリアフリー教育開発センターの協力のもと実施する等、その活動を継続させた。また、東京大学大学院教育学研究科と協同で立ち上げた「インクルーシブな未来社会連携講座(SHIFT)―補助犬との協働でひらく共生社会」プロジェクトでは、補助犬・支援犬がユーザーにもたらすウェルビーイングだけでなく、ユーザーの周りの人々の認識や学校・職場の環境・文化・制度の変化を促進することを通じて、新たなインクルーシブ社会のビジョンを構想し実装することを目指し、公開講座を隔月で開講するなど広く社会に向けた啓発活動に努めた。

◆公益事業実施状況

A 補助犬育成関係

1. 補助犬育成・貸与・認定事業

1)補助犬(及び候補犬)の育成・認定及び貸与

次のとおり、補助犬 4 頭の育成・認定を行い希望する身体障害者に貸与した。

当協会が育成・認定した補助犬 2 頭

盲導犬 1 頭

聴導犬 1 頭

他団体が育成し当協会が認定した補助犬 2 頭

介助犬 1 頭

聴導犬 1 頭

2)身体障害者補助犬認定審査会開催状況次の通り開催した。

令和 8 年 2 月 22 日 認定頭数 介助犬 1 頭 聴導犬 2 頭

2. 補助犬ユーザー(使用者)に対するフォローアップ

補助犬ユーザーと補助犬の生活の質及び補助犬作業の質の向上を図るため、次のとおりフォローアップを行った。

1) フォローアップ

- ・全補助犬ユーザーからの定期報告書および補助犬健康診断書の提出(4月～5月)
- ・盲導犬ユーザーに対するフォローアップ
来所・訪問 10人 延べ 16日
電話・メール 12人 延べ 39回
- ・介助犬ユーザーに対するフォローアップ
来所・訪問 5人 延べ 31日
電話・メール 5人 延べ 28回
- ・聴導犬ユーザーに対するフォローアップ
来所・訪問 10人 延べ 30日
メール・FAX 18人 延べ 46回

2) 補助犬希望者の相談業務

- ・盲導犬希望者の相談 3人 延べ 5回
- ・介助犬希望者の相談 12人 延べ 16回
- ・聴導犬希望者の相談 5人 延べ 10回

3. 補助犬候補犬の導入並びに繁殖、関連事項

1) 補助犬候補犬、繁殖犬導入

海外の盲導犬協会より候補犬3頭を導入した。
国内盲導犬育成団体よりパピー3頭を導入した。

2) 聴導犬候補犬確保のための外部からの導入

国内の支援者より3頭の候補犬を導入した。

4. パピーの育成

パピーファミリー(仔犬飼育ボランティア)に委託している将来補助犬になり得る仔犬の飼育は、「社会化」と「月齢に応じたきめ細かいしつけ方」についてパピーの発達段階毎のサポートを行った。

- ・委託状況

6頭

- ・サポート方法

電話、メール、しつけ教室の、訪問等

電話・メール相談 55 回

しつけ教室の開催 4 回

訪問 3 回

5. 引退犬の支援

17 頭の引退犬に対して協会医療室にて健康管理をサポートすると同時に引退犬ボランティアに対して老犬に対する飼育相談等を行った。

- ・ 医療室の利用 6 件
- ・ 来所・訪問 15 回
- ・ 電話・メール相談 61 回
- ・ 医療費支援
- ・ 介護用品の貸し出し
- ・ 老犬ホームの施設整備
- ・ 訓練センターにて月 1 回程度のシャンプー
- ・ 引退犬の預かり

B 補助犬啓発関係

1. 「第 13 回もっと知って補助犬キャンペーン」

- ・ 期 間 2026 年2月 1 日～2026 年3月31日

補助犬シンポジウムの開催

日時 2026 年 3 月 28 日

場所 東京大学教育学部附属中等教育学校（Zoom 併用）

中学校・高校現場での支援犬介在の可能性と課題

～スクール・ドッグ・プログラムの充実にむけて～

2. 心のバリアフリーの推進

下記を主な活動先とし、計55回実施した。

- ・大塚商会、ライオン事務器、アモーバアセットメント、東京品川ロータリークラブ、プルデンシャル生命保険、足立区役所、三井住友ファイナンス&リース、マミーマート、野村工藝社

3. セミナー・実演、他

下記を主な活動先とし、計21回実施した。

アクセンチュア、ヒルズ、日本モロッコ協会、マルホ、愛鶴タクシー、こども霞が関見学デー、佐渡愛護フェスタ、神奈川トヨタ、湘南フィル、わんにゃんスマイルフェス、手話サークルまちだ、メーデー中央大会、手話サークル「フレンド」横浜市立大学オープンキャンパス、東京大学附属中等教育学校、豊島区ふくし健康まつり、HAMA-CHO ドッグフェス2025、マミーマート、横浜市愛護フェスタ、東邦航空、ペテモフェス、すみだスマイルフェスティバル

4. 授業・他

下記を主な活動先とし、計21回実施した。

品川区立延山小学校、あきる野市立秋多中学校、大和市立南林間小学校、平泉町立長島小学校、花巻市立花巻小学校、花巻市立笹間第一小学校、港区立MINATO スクール、東京大学附属中等教育学校、日本ウェルネススポーツ大学、横浜国立大学、関西福祉大学

5. 見学・訪問

下記を主な訪問者(先)とし、計37回設けた。

文部科学省、厚生労働省、スーパーマーケット協会、日本ペットフード協会、横浜信用金庫、三井住友ファイナンス&リース、神奈川県立高津支援学校、横浜国立大学、日本ウェルネススポーツ大学、東邦航空、乃村工藝社、山形県生命保険協会、湘南鎌倉病院、三和ホールディングス、シスコシステムズ合同会社、SMFL レンタル、足立区役所、GREEN×EXPO 協会、横浜市役所医療局地域医療課、神奈川県教育委員会、日本生命、静岡県議会、国際連合大学、大阪市、山梨県、神奈川県、柴橋商会

6. 取材・掲載、他

神奈川新聞社、NHK 大阪、anan、大阪府記者クラブ、産経新聞、彰国社、神奈川県記者クラブ、BS-TBS、東京都、チャイルド社

7. パンフレット・会報の作成・配布

当協会の組織概要・事業実施状況等に関する情報を発信することにより知名度の向上、支援者の発掘等を図るためパンフレット等を作成・配布した。

・パンフレットの配布

当協会のサポーター制度・寄付金の使途等に関するパンフレットをイベント等で配布した。

- ・ 会報の作成・配布

当協会の活動状況等について報告することにより、賛助会員及び募金箱設置の継続率向上、ひいては運営費の安定供給を図るため、会報「につぼけん通信」第25号を6,000部作成し、賛助会員、募金箱設置店、協力企業・団体に送付した。

8. SNS の充実・活用

ホームページの新着情報及び Facebook では、啓発活動を中心に、活動毎丁寧に掲載した。また、Instagramを活用し、補助犬の日常生活の一コマを中心に写真・動画を掲載し身近な存在として補助犬を理解してもらえよう情報発信の充実に努めた。その他、Facebook で、クラウドファンディングの広告を行った。

C 自立支援事業

1. 医療ファシリティドッグ

社会医療法人栄公会佐野記念病院及び栄公会グループ施設において、医療ファシリティドッグによる動物介在療法(AAT)他を行った。

また、医療法人協仁会小松病院クリニックにおいても医療ファシリティドッグの派遣を行った。

2. 教育ファシリティドッグ

東京大学教育学部との連携講座に基づき、東京大学教育学部附属中等教育学校へ、教育ファシリティドッグを派遣した。

3. 自閉症児支援犬

自閉症児に対し、社会化訓練及び日常動作訓練を目的に、自閉症児支援犬セッションを実施した。

D 関係団体等との連携

1. 姉妹校 Guide Dogs Victoria を訪問し、候補犬の選定を行った。

2025年8月9日-15日 訓練士・指導員3名が渡豪

2. 横浜市との連携

「人と動物との共生推進よこはま協議会」委員として協議会に参画した。

3. 日本ヒルズコルゲート株式会社から社員派遣、および協会在所犬のドッグフードの提供を受けた。

加盟団体

- * 国際盲導犬連盟 International Guide Dogs Federation
 - ・2025 年 6 月 18 日 -24 日 IGDF カンファレンス(UK)に出席 2 名
 - ・2025 年 6 月 24 日 -30 クロアチア盲導犬協会訪問 2 名
- * 国際補助犬連盟 Assistance Dogs International
 - ・2025 年 8 月 16-21 加盟団体訪問 アデレードおよびパース 各 1 名
 - ・2025 年 11 月 10 日 -14 ADI ワークショップ(メルボルン)にて講演 4 名 渡豪
- * 日本盲人社会福祉施設協議会
- * 全国補助犬育成・認定法人連合会

連携

- ・横浜国立大学教育推進機構と協力し、全学教育科目「インクルーシブ社会のデザインー人と犬が支え合うカタチ」を開講した。
- ・東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター連携講座「インクルーシブな未来社会連携講座」を開講した。
- ・横浜市立大学共創イノベーションセンターと、医療ファシリテードッグについての共同研究を開始した。
- ・東京都港区教育委員会と協働し、教育ファシリテードッグの派遣を開始した。

E 当法人の運営体制の充実を図るための取組

外部専門家の助言を受けながら、法人運営の適正化に向けた検討を主体的に行い、必要に応じた改善措置を講じており、経理体制の充実強化を図った。

◆ 収益事業実施状況商品販売事業

1. 補助犬チャリティー商品の制作・販売協会オリジナルトートバッグ、アクリルキーホルダー、カレンダーを制作したほか、ボランティアの協力を得て補助犬チャリティー商品を制作し、イベント会場やオンラインで販売した。

2. 自動販売機設置

訓練センターに設置した自動販売機の売り上げに対する手数料収入及び募金型自動販売機からの収入を得た。

なお、2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していない。

【参考】

◇理事会開催状況

開催年月日	主な決議事項
2025 年 5 月 29 日	2024 年度事業報告及び決算報告書の承認について
2026 年 3 月 21 日	2026 年度事業計画書及び収支予算書の承認について

◇評議員会開催状況

開催年月日	主な決議事項
2025 年 6 月 13 日	2024 年度収支決算書の承認について

◇職員に関する事項

2026 年 3 月 31 日現在職員在籍状況(理事含む)

部署	職種	常勤			非常勤			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
管理部門	総務・経理	1	1	2	0	5	5	1	6	7
補助犬育成部門	指導員	0	2	2	0	0	0	0	2	2
	訓練士	0	1	1	0	0	0	0	1	1
	ケネル	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	獣医師・トリマー	0	0	0	1	1	2	1	1	2
普及啓発部門	広報・啓発	0	0	0	1	0	1	1	0	1
計		2	4	6	2	6	8	4	10	14

注) 業務委託、派遣社員含む

◇施設の状況

1)所在地 横浜市旭区矢指町 1954-1～2

2)敷地面積 (単位 m²)

訓練センター	955,64
認定試験センター	498,50
計	1454,14

3)建物 (単位 m²)

区分	構造	延床面積	主な施設
訓練センター	木造 2 階建て	497,70	事務室、ミーティングルーム、ケネルブリーディングルーム、グルーミングルーム、共同訓練用居室(4 室)、食堂、厨房、浴室、多目的ルーム
認定試験センター兼老犬ホーム	木造平屋建て	188,79	犬用医療室、老犬ルーム、多目的ルーム、ゲストルーム